

参考資料

愛媛県



# 1 森林の多面的機能と森林に期待する働き

## (1) 森林の多面的機能

森林は、木材生産のみならず、土砂災害防止や水源涵養のほか、地球環境保全、生物多様性の保全、快適環境形成、更には、保健・文化の場として、私達が安全・安心で快適な暮らしを営む上で欠かせない、多面的機能を有しています。

また、林業は森林保全に重要な役割を果たしており、県内の森林資源が充実する中、今後とも、資源の循環による森林の若返りを促進し、山村振興と森林の多面的機能の高度発揮に貢献していくことが重要な課題となっています。

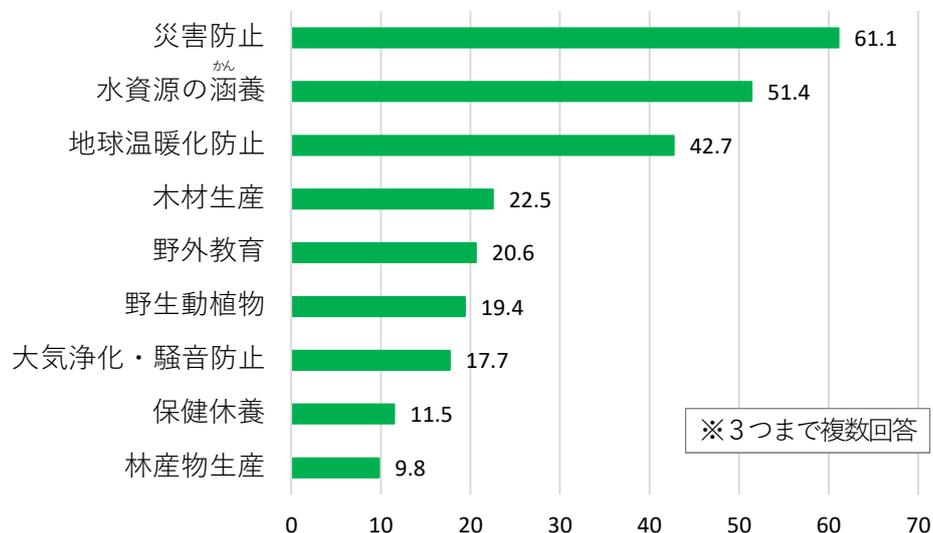


[政府広報資料]

## (2) 県民の森林に期待する働き

愛媛県政に関する世論調査（令和5年3月公表：広報広聴課）の結果です。

「森林に期待する働き」について尋ねたところ、山崩れや洪水などの災害を防止する働きが 61.1%と最も高く、以下、水を浄化したり水資源などを蓄える働き、二酸化炭素の吸収など地球温暖化防止に貢献する働きの順となっており、いずれも私たちの生活に密着した働きに期待していることが分かります。

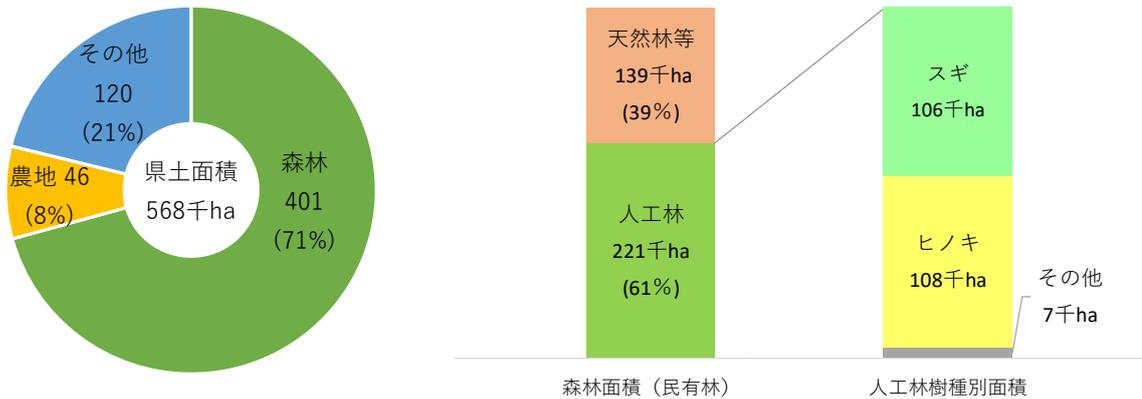


## 2 本県の県土面積と人工林樹種別面積

### (1) 県土面積と人工林樹種別面積

本県の県土面積は56万8千ha、森林面積は40万1千haであり、県土面積の約7割を占めています。

また、国有林を除く民有林36万haのうち、人工林は61%となっており、全国平均の41%を大きく上回っています。



[R6.3 林業政策課業務資料]

### (2) 本県の森林・林業・木材産業の地位

本県の森林・林業・木材産業の地位は、⑤の民有林の人工林面積は全国で10位、⑥の民有林の人工林率は全国8位となっています。

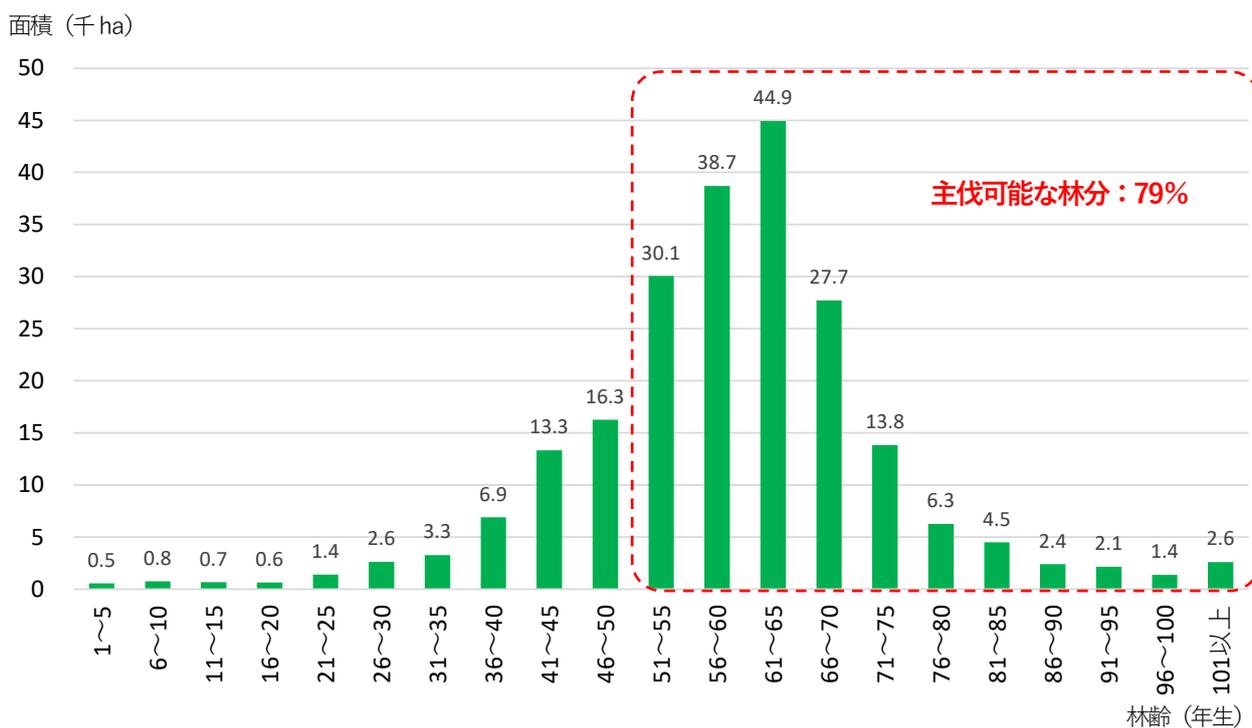
また、⑦の素材生産量は全国13位ですが、⑨のヒノキについては、全国3位の生産量を誇っており、⑩の製材品出荷量は全国6位となるなど、本県は全国有数の林業県であり、林産県であることが分かります。

項目	単位	愛媛県	全国順位	全国平均	資料
① 土地面積	千ha	568	26	804	愛媛県：林業政策課業務資料
② 森林面積	千ha	401	23	533	〃
③ 森林率	%	71	19	66	〃
④ 民有林面積	千ha	360	19	369	〃
⑤ 民有林の人工林面積	千ha	221	10	168	〃
⑥ 民有林の人工林率	%	61	8	46	〃
⑦ 素材生産量	千m <sup>3</sup>	563	13	489	農林水産省：木材統計 (R4)
⑧ 素材生産量 (スギ)	千m <sup>3</sup>	343	11	288	〃
⑨ 素材生産量 (ヒノキ)	千m <sup>3</sup>	218	3	66	〃
⑩ 製材品出荷量	千m <sup>3</sup>	397	6	191	〃
⑪ 乾しいたけ生産量	t	103	4	-	林野庁：特用林産基礎資料 (R4)

### 3 収穫期を迎えた人工林資源

本県の民有林のうち、人工林の林齢別面積は次のグラフのような構成となっています。昭和30年代に盛んに植林され、その後急激に減少した結果、61から65年生の人工林の面積が最も多くなっており、全体の約2割を占めるなど、大きな偏りが見られます。

また、本県では、51年生以上の主伐可能な林分（主にスギ・ヒノキ）が、人工林の79%を占めるなど資源が充実しています。特に、将来的に循環利用が可能な森林では、主伐による効率的な木材生産を行うとともに、植林や育林を確実に進め、森林の若返りと林齢構成の平準化を進め、持続可能な森林経営を目指していくことが重要となっています。



[林業政策課業務資料]



[林野庁(森林・林業・木材産業の現状と課題)抜粋]

## 4 森林・林業を支える担い手の推移

### (1) 林業就業者数の推移

県内の林業就業者数は、平成7年度には2千人を超えていましたが、平成30年度には1千人を下回り、約50%に減少し、令和5年度には820人にまで減少しています。

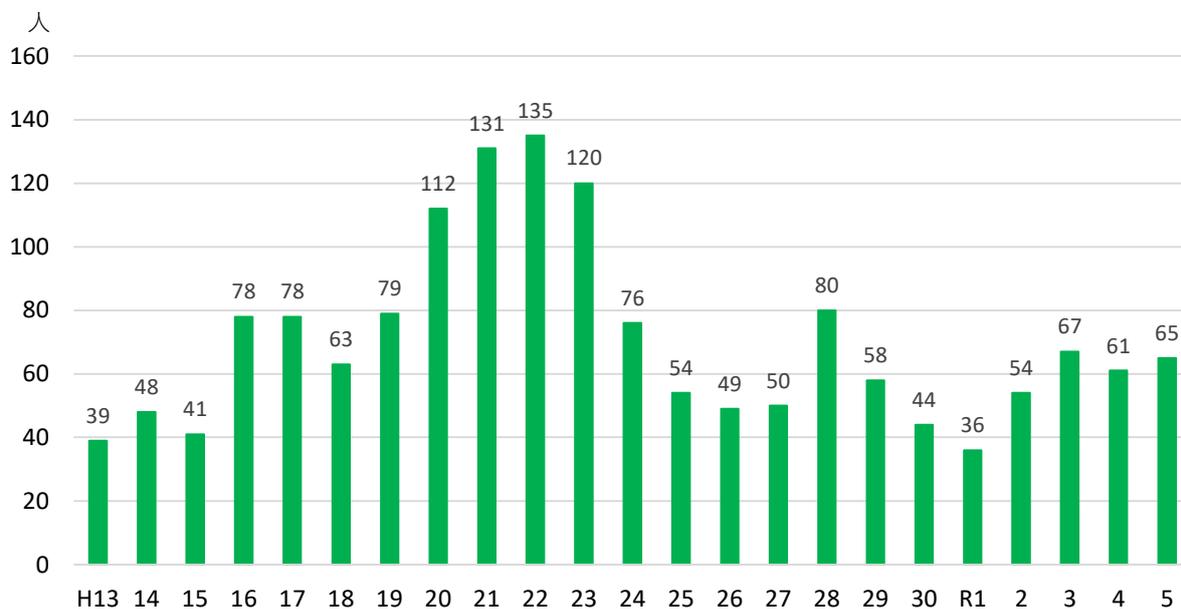
「伐って、植えて、育てる」森林資源の循環のためには、森林・林業を支える担い手の確保が重要な課題となっています。



[林業政策課業務資料]

### (2) 林業新規参入者数の推移

県内の林業新規参入者数は、近年60人前後で横ばいですが、高齢等により離職する人数を補うまでには至っておらず、技術の伝承の面においても影響が心配されているところです。

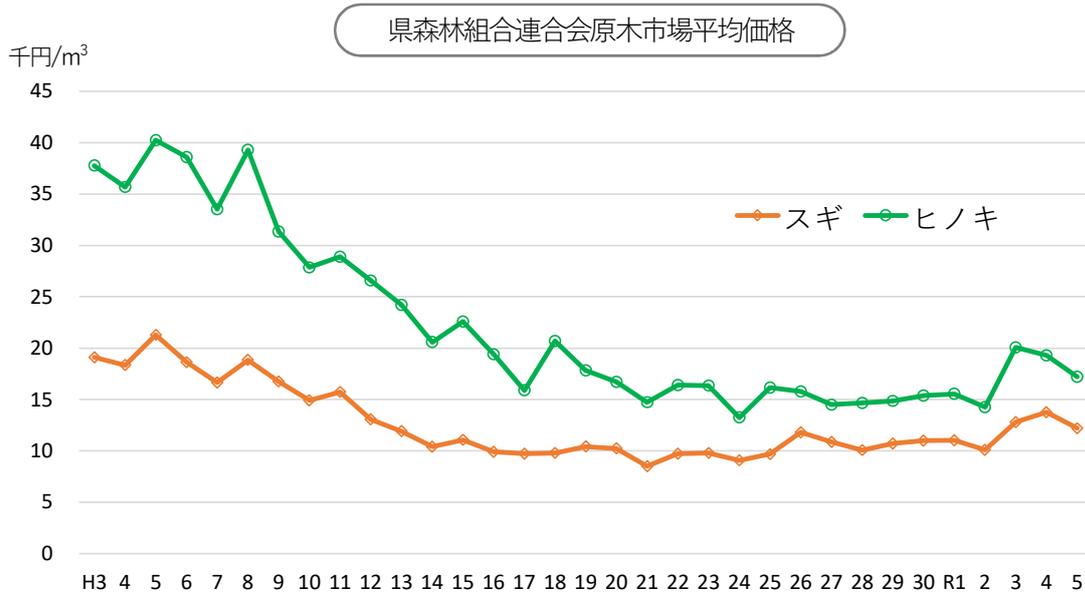


[林業政策課業務資料]

## 5 木材価格及び素材生産量の推移

### (1) 木材価格の推移

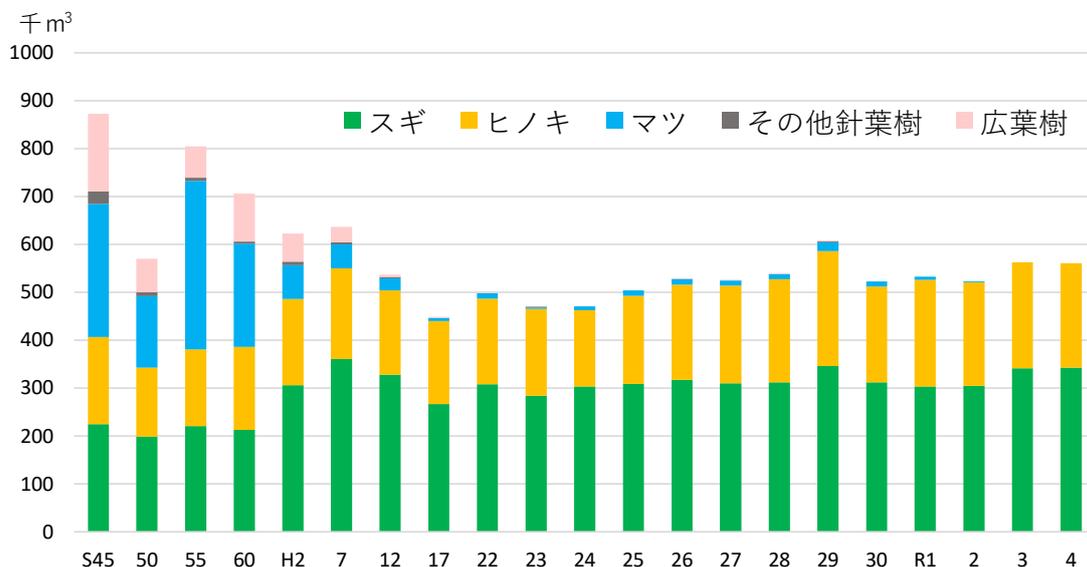
原木市場におけるスギ・ヒノキの1m<sup>3</sup>あたりの木材価格は、平成5年度はヒノキ40,241円、スギ21,287円でしたが、ここ30年ほどの間にウッドショックによる一時的な値上がりはあったものの、木材価格は低下傾向のままであり、令和5年度は平成5年度に対し、ヒノキは約4割の17,209円、スギは約6割の12,198円となっています。



### (2) 素材生産量の推移

県内の素材生産量は、昭和45年には87万3千m<sup>3</sup>の素材生産量があり、マツや広葉樹が半分を占めていましたが、近年はスギやヒノキが中心となっています。

ここ10年間の素材生産量は、年間50万から60万m<sup>3</sup>の間で推移していますが、人工林資源が成熟期にあることから、主伐による素材生産量の割合が増えてきています。



[林業政策課業務資料]

## 6 森林環境税の指標と目標値及び実績

### (1) 指標と目標

指標	第1期		第2期		第3期		第4期		目標合計
	目標値	内容	目標値	内容	目標値	内容	目標値	内容	
(森をつくる活動) 森林整備面積	1,700 (ha)	集中的、限定的に緊急性の高い森林を整備	10,325 (ha)	森林に対する県民の期待に対処し、森林整備を加速化	8,840 (ha)	森林被害や放置竹林対策など、多様な森林整備を推進	7,600 (ha)	資源の循環利用を促進する森林整備を展開	28,465 (ha)
(木をつかう活動) 木材使用量	31,000 (m <sup>3</sup> )	県民に対して、木材利用の意義などを普及	60,000 (m <sup>3</sup> )	持続的な森林整備に不可欠な県産材の需要拡大	140,000 (m <sup>3</sup> )	公共施設などの木造化や木質資源の利用拡大など、県産材の競争力を強化	210,000 (m <sup>3</sup> )	木質資源の利用促進や安定供給体制づくりを確立	441,000 (m <sup>3</sup> )
(森とくらす活動) 県民参加人数	23 (万人)	県民総ぐるみの森林整備への支援と県民自らの活動を支援	72 (万人)	県民参加の森林づくり等の推進と県民自らの活動を支援	72 (万人)	県民参加の森林づくりの本格化と県民自らの活動を支援	72 (万人)	森林を身近に感じる県民参加の森林づくりの拠点を整備	239 (万人)

### (2) 実績

指標	第1期実績					
	H17	H18	H19	H20	H21	合計
森林整備面積(ha)	73	274	625	1,016	4,321	6,309
木材使用量(m <sup>3</sup> )	—	4,848	2,672	5,725	14,054	27,299
県民参加人数(人)	20,853	60,232	112,330	178,134	257,680	629,229

指標	第2期実績					
	H22	H23	H24	H25	H26	合計
森林整備面積(ha)	3,616	3,776	1,247	804	477	9,920
木材使用量(m <sup>3</sup> )	23,514	21,475	27,936	37,252	31,302	141,479
県民参加人数(人)	203,631	107,942	73,908	161,107	113,239	659,827

指標	第3期実績					
	H27	H28	H29	H30	R1	合計
森林整備面積(ha)	1,487	1,460	1,470	1,508	1,536	7,461
木材使用量(m <sup>3</sup> )	55,172	73,216	100,030	120,928	136,802	486,148
県民参加人数(人)	124,623	129,728	136,869	127,186	512,355	1,030,761

指標	第4期実績					
	R2	R3	R4	R5	R6	合計
森林整備面積(ha)	1,190	1,135	1,222	1,265	—	4,812
木材使用量(m <sup>3</sup> )	91,784	91,112	90,400	95,040	—	368,336
県民参加人数(人)	359,228	320,847	486,162	550,411	—	1,716,648

指標	H17～R5		実績に対する見える化 (換算値)	目標達成率(%)
	目標値※	実績合計		
森林整備面積(ha)	26,945	28,502	愛媛県の人工林面積 (221,000ha) 約13%分	106
木材使用量(m <sup>3</sup> )	399,000	1,023,262	愛媛県木造住宅着工数 (5,000戸/年) 約51,200戸分	256
県民参加人数(人)	2,246,000	4,036,465	愛媛県の総人口 (1,285,214人) 約3倍	180

※R5までの目標値

## 7 県民アンケートの結果について

### 1 調査概要

- ① 個人（一般県民） 1,000人（有効回答 409人）  
 ② 法人 1,000社（有効回答 445社）

### 2 調査結果

#### ① 継続について

	個人	68%	法人	72%
賛成	30%	}	29%	}
どちらかといえば賛成	38%		43%	
どちらかといえば反対	8%		5%	
反対	7%		4%	
わからない	17%		19%	

#### ② 税率について

	個人	法人
同額（700円）	68%	82%
その他	32%	13%
		県民税均等割額の7%
		県民税均等割額の10%

#### ③ 課税期間について

	個人	法人
5年間	56%	64%
10年間	24%	24%

#### ④ 取り組みが必要と思う項目について（※複数回答）

	個人	法人
<b>【全般】</b>		
○災害に強い森づくり	67%	63%
○木を伐って・使って・植えて育てる循環利用の森づくり	60%	65%
○森林を整備し、木材を収穫する産業の育成	45%	45%
<b>【分野別】</b>		
「森をつくる」		
・災害に強い森林づくり	71%	70%
・放置された竹林・農地等を活用する森づくり	64%	62%
・間伐の推進による森林整備	41%	39%
・木を伐って、使って、植えるカーボンニュートラルに貢献する森づくり	39%	52%
「木をつかう」		
・学校や公民館等の公共施設の木造化	68%	58%
・一般住宅の建築を推進するための木材利用	56%	52%
・木材の新たな用途への利用促進	44%	41%
「森とくらす」		
・森林の魅力が気軽に体験できる拠点施設の充実	58%	58%
・森林教室など子ども世代（幼少期）からの教育活動	58%	58%
・グリーンツーリズムなど観光施設の整備	30%	41%

#### ⑤ その他

一般県民の65%が、「森林に対して関心を持っている」との一方で、森林環境税の認知度は17%と低い。

## 8 県民意見交換会の結果について

### (1) 開催概要

- ①開催日時 令和5年12月20日(水)10:00～12:00 中予会場(県武道館)  
 及び場所 令和5年12月21日(木)13:30～15:30 東予会場(西条市地域創生センター)  
 令和5年12月22日(金)13:30～15:30 南予会場(きさいや広場市民ギャラリー)
- ②参加者 各種団体等関係者及び一般県民
- ③参加人数 中予会場 65名 南予会場 60名 東予会場 49名 合計174名
- ④内 容 県森林環境税を活用した事業評価や今後の対応等について、県民の意見を聴取。

### (2) 主な意見

項目	内 容
継続について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も有効に使われることに期待している。</li> <li>○国の森林環境税ができない部分をフォローして継続してほしい。</li> <li>○森林の保全やCO2吸収対策として期待されている。</li> <li>○森林ボランティア活動の継続のため県税が必要である。</li> </ul>
活用について	<p>森をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県の森林の若返りを検討してほしい。</li> <li>○林業従事者の年収向上が必要であり、年間従事日数の確保が重要である。</li> <li>○担い手、技術者の育成に支援をお願いしたい。</li> <li>○林業のためには道が重要である。</li> <li>○SNSを利用して、大学生など若い力を山に活用できないか。</li> </ul>
	<p>木をつかう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○需給調整により材価を上げること、優良材の価格向上が必要である。</li> <li>○身近なところから県産材を使用できる環境を整えて、木材の利用促進に繋げてほしい。</li> <li>○都市木造の分野にはまだ開拓の余地があると思う。</li> <li>○木造は高いという先入観があったが、物価高騰の影響もあり建築費が安い場合もある。設計者としても使っていきたい。</li> <li>○使う側、買う側の立場からの意見やアイデアも積極的に取り入れてほしい。</li> <li>○木材を建築以外のもので活用する道も検討してほしい。</li> </ul>
	<p>森とくらす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○森林や林業は分かりにくいので見える化と幅広い世代への教育が必要である。</li> <li>○次代を担う子供たちに森林に関心を寄せてもらいたい。</li> <li>○保護者も一緒に体験して理解を深めることが重要である。</li> <li>○伐って、使って、植えることは全体的に環境に良いことだと子供たちに教育してほしい。</li> <li>○木育や体験教室など実際に木に触れる機会を多くつくってほしい。</li> <li>○メディアへの発信が重要である。</li> </ul>
国税との棲み分け	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイドラインの作成など、用途の明確化と分かり易い説明が必要である。</li> <li>○HP等のPRが必要である。Q&amp;Aも掲載してほしい。</li> <li>○県税の名称変更も含めて検討してほしい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政、業界、関係団体などの連携が必要である。</li> <li>○森の豊かさが海の豊かさに繋がっており、すべてが循環して成り立っている。</li> </ul>